

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年2月9日

【四半期会計期間】 第105期第3四半期(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)

【会社名】 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

【英訳名】 H2O RETAILING CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 荒木直也

【本店の所在の場所】 大阪市北区角田町8番7号

【電話番号】 06-6365-8120 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 吉松宏之

【最寄りの連絡場所】 大阪市北区梅田1丁目13番1号 大阪梅田ツインタワーズ・サウス14階

【電話番号】 06-6365-8120 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 吉松宏之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第104期 第3四半期 連結累計期間	第105期 第3四半期 連結累計期間	第104期
会計期間		自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2023年4月1日 至 2023年12月31日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高	(百万円)	474,896	495,464	628,089
経常利益	(百万円)	11,642	23,919	13,004
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	10,957	17,772	16,382
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	21,089	20,827	25,778
純資産額	(百万円)	268,092	287,555	272,814
総資産額	(百万円)	714,346	719,149	686,423
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	89.93	153.94	135.85
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	89.25	152.64	134.81
自己資本比率	(%)	34.2	36.5	36.2

回次		第104期 第3四半期 連結会計期間	第105期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 2022年10月1日 至 2022年12月31日	自 2023年10月1日 至 2023年12月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	68.18	99.62

(注) 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

##### （食品事業）

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社阪急オアシスを存続会社、同じく当社の連結子会社であるイズミヤ株式会社を消滅会社とする吸収合併を行い、存続会社の商号をイズミヤ・阪急オアシス株式会社に変更いたしました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。

当社グループは、2021年12月15日付で株式会社関西スーパーマーケットと経営統合いたしました。2022年3月期第3四半期連結累計期間の連結損益計算書には株式会社関西フードマーケット、株式会社関西スーパーマーケット、株式会社K S Pの売上高及び損益は含まれておりません。

#### (1) 経営成績の状況

##### 連結経営成績

(百万円)

	21/12累計 金額	22/12累計 金額	23/12累計		
			金額	前年比	増減
百貨店事業	282,457	365,102	424,663	116.3%	+59,561
食品事業	225,860	315,565	323,633	102.6%	+8,067
商業施設事業	34,748	27,494	24,384	88.7%	3,109
その他事業	24,083	26,623	28,958	108.8%	+2,334
総額売上高	567,149	734,786	801,639	109.1%	+66,853
売上高	371,303	474,896	495,464	104.3%	+20,568
百貨店事業	1,060	7,854	16,755	213.3%	+8,901
食品事業	3,926	4,555	7,218	158.5%	+2,663
商業施設事業	380	1,681	2,928	174.2%	+1,247
その他事業	2,618	2,318	1,419		+3,737
調整額	2,029	2,291	6,137		3,845
営業利益	720	9,481	22,184	234.0%	+12,703
経常利益	2,012	11,642	23,919	205.4%	+12,276
特別利益	22,578	8,857	4,421	49.9%	4,436
特別損失	8,791	3,906	2,718	69.6%	1,187
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12,937	10,957	17,772	162.2%	+6,814

2022年3月期第1四半期連結会計期間の期首より収益認識に関する会計基準等を適用し、消化仕入契約に基づく売上高等の計上方法を変更しております。

なお、収益認識に関する会計基準等による影響を除外した従前の基準での売上高に相当する数値を「総額売上高」として記載しております。

## > 売上高

当社グループの売上高は、495,464百万円（前期比104.3%）、収益認識に関する会計基準等による影響を除外した従前の基準での売上高に相当する総額売上高は801,639百万円（前期比109.1%）となりました。百貨店事業では円安や株高などの外部環境の好影響が継続したこともあり、国内消費は堅調に推移、インバウンド売上は大きく伸長しました。食品事業では点単価の上昇と客数の回復により既存店売上高が前年を上回り、連結全体で増収となりました。

## > 営業利益及び経常利益

百貨店事業の売上伸長に伴う利益改善に、各セグメントでの増益も加わり、営業利益は22,184百万円（前期比234.0%）、経常利益は23,919百万円（前期比205.4%）といずれも第3四半期連結累計期間として過去最高となりました。

### （百貨店事業）

好調な高額商材売上とコロナ禍からの回復に伴う入店客数の増加により、国内売上高は引き続き堅調に進捗しました。インバウンド売上高は円安の影響もあり過去最高となりました。

阪急本店では、全てのカテゴリーが前年を上回って推移しました。化粧品を含めファッション全般が好調で、ジュエリーや時計、ラグジュアリーブランドファッション等が好調なインバウンド売上の押し上げもあり引き続き伸長しています。

販売費及び一般管理費については、人件費やカード手数料などの売上に連動する費用が増加したものの、計画に対しては抑制しました。

以上の結果、総額売上高は424,663百万円（前期比116.3%）、営業利益は16,755百万円（前期比213.3%）となりました。

### （食品事業）

食品事業は、総額売上高が323,633百万円（前期比102.6%）、営業利益は7,218百万円（前期比158.5%）となりました。

売上・粗利益率改善に向け、曜日販促による集客施策に加え、総菜・PB商品や重点販売商品の取り組みを強化しました。イズミヤ・阪急オアシス株式会社の既存店売上高前年同期比は104.0%（客数101.9%、客単価102.0%）、株式会社関西スーパーマーケットは104.4%（客数100.4%、客単価104.0%）となりました。両社ともに値上げの影響による客単価上昇と客数の回復により、既存店売上高は前年を上回って推移しました。

販売費及び一般管理費は生産性向上のため什器等の改善を実施し、要員体制の最適化などにより経費コントロールに努めたことで、計画を下回りました。

食品製造子会社は、株式会社阪急デリカアイや株式会社阪急ベーカリーにおいて、グループ外への卸販売と専門店売上が伸長し増益となり、宅配事業は株式会社阪急キッチンエール関西の新センター稼働と会員システムの変更影響により減収減益となりました。

## (商業施設事業)

商業施設事業は、総額売上高24,384百万円(前期比88.7%)、営業利益2,928百万円(前期比174.2%)となりました。

ホテルを運営する株式会社大井開発では、ビジネス・観光ともに宿泊需要が回復し、機動的な価格施策と効率的な運営により客室稼働率が90%を超えて推移しました。

イズミヤのショッピングセンター運営と衣料品・住居関連品販売及びテナント管理を行う株式会社エイチ・ツー・オー 商業開発は、収益力強化、費用の適正化、地域との連携強化による差別化に取り組みました。イズミヤショッピングセンターの店舗閉鎖や直営売場の縮小により減収となったものの、経費の抑制やテナントの売上拡大に向けた取り組みや新規イベント区画の設置が計画以上に進捗するなど効率的な運営を進めています。

## (その他事業)

その他事業は、総額売上高28,958百万円(前期比108.8%)、営業利益1,419百万円(前期は営業損失2,318百万円)となりました。コロナ禍からの回復により専門店子会社が増収となり、持株会社である当社を除いたその他事業の子会社で354百万円の増益となりました。

## &gt; 親会社株主に帰属する四半期純利益

特別利益として百貨店旧配送センターの土地売却等で固定資産売却益4,421百万円を計上した一方で、阪急本店の改装や神戸阪急・高槻阪急のリモデル改装等に伴う固定資産除却損2,095百万円など特別損失を2,718百万円計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は17,772百万円(前期比162.2%)となりました。

## 主な特別損益の状況 (百万円)

科目	金額	主な内容
特別利益	4,421	(対前年 4,436百万円)
固定資産売却益	4,421	阪急阪神百貨店等
特別損失	2,718	(対前年 1,187百万円)
固定資産除却損	2,095	阪急阪神百貨店等
事務所移転費用	295	食品事業本社部門集約
減損損失	166	
店舗等閉鎖損失	161	

## (2) 財政状態

				(百万円)			
	22/12末	23/3末	23/12末		22/12末	23/3末	23/12末
現金及び預金	65,474	58,670	62,953	支払手形及び買掛金	92,043	63,674	93,064
受取手形及び売掛金	83,365	68,572	89,472	借入金及び社債	179,353	179,267	168,930
棚卸資産	23,541	21,234	22,797	負債合計	446,254	413,608	431,593
流動資産合計	184,554	161,408	191,371	株主資本	200,762	206,213	219,044
固定資産合計	529,792	525,015	527,777	純資産合計	268,092	272,814	287,555
資産合計	714,346	686,423	719,149	負債純資産合計	714,346	686,423	719,149

## (3) 設備投資の状況

(百万円)

	金額	主な内容
百貨店事業	6,451	神戸阪急、阪急本店改装
食品事業	4,943	イズミヤ・阪急オアシス 建物購入
商業施設事業	1,476	
その他事業	12,057	エイチ・ツー・オー リテイリング システム投資
調整額	65	
合計	24,865	

## (4) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

## (5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。なお、売上高につきましては国内売上高が堅調に進捗したことに加え、インバウンド売上高が過去最高となるなど百貨店事業を中心に計画に対して着実に推移し、販売費及び一般管理費につきましては、生産性向上のための施策の実施や要員体制の最適化を通じたコストコントロールに努めた結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は計画を上回る進捗となりましたため、2023年度の営業利益予想を220億円から245億円に変更しております。

## (6) 研究開発活動

特記事項はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年2月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	125,201,396	125,201,396	東京証券取引所 プライム市場	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式。単元株式数は100株であります。
計	125,201,396	125,201,396		

(注) 提出日現在の発行数には、2024年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年12月31日		125,201,396		17,796		72,495

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である2023年9月30日の株主名簿により記載しております。

## 【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 9,989,100		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 114,905,200	1,149,052	同上
単元未満株式	普通株式 307,096		同上
発行済株式総数	125,201,396		
総株主の議決権		1,149,052	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,700株(議決権の数17個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式92株が含まれております。

## 【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社	大阪府大阪市北区角田町 8番7号	9,989,100		9,989,100	7.98
計		9,989,100		9,989,100	7.98

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2023年10月1日から2023年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	58,670	62,953
受取手形及び売掛金	68,572	89,472
商品及び製品	19,800	21,773
仕掛品	149	104
原材料及び貯蔵品	1,285	919
未収入金	8,055	11,228
その他	5,306	5,618
貸倒引当金	430	699
流動資産合計	161,408	191,371
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	125,783	127,261
機械装置及び運搬具(純額)	2,839	3,352
土地	162,665	159,578
建設仮勘定	1,465	715
その他(純額)	10,498	10,427
有形固定資産合計	303,253	301,335
無形固定資産		
のれん	1,690	1,310
その他	18,074	24,378
無形固定資産合計	19,764	25,688
投資その他の資産		
投資有価証券	101,249	101,970
長期貸付金	11,454	10,490
差入保証金	70,903	70,053
退職給付に係る資産	4,548	5,316
繰延税金資産	14,901	13,985
その他	1,683	1,639
貸倒引当金	2,743	2,701
投資その他の資産合計	201,997	200,754
固定資産合計	525,015	527,777
資産合計	686,423	719,149

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	63,674	93,064
1年内返済予定の長期借入金	15,350	5,350
1年内償還予定の社債	-	10,000
未払金	27,877	28,994
リース債務	839	736
未払法人税等	5,395	3,667
商品券	8,908	9,239
前受金	32,820	33,932
賞与引当金	4,740	3,055
役員賞与引当金	109	105
店舗等閉鎖損失引当金	1,947	756
人事制度改編費用引当金	682	-
資産除去債務	570	143
その他	13,139	16,283
<b>流動負債合計</b>	<b>176,055</b>	<b>205,330</b>
<b>固定負債</b>		
社債	20,000	10,000
長期借入金	143,917	143,580
長期未払金	325	187
リース債務	10,280	9,740
繰延税金負債	31,735	31,874
再評価に係る繰延税金負債	266	266
役員退職慰労引当金	207	189
商品券等回収引当金	3,247	3,436
長期預り保証金	10,572	10,378
退職給付に係る負債	13,028	12,781
資産除去債務	3,444	3,411
その他	526	417
<b>固定負債合計</b>	<b>237,553</b>	<b>226,262</b>
<b>負債合計</b>	<b>413,608</b>	<b>431,593</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	17,796	17,796
資本剰余金	94,882	94,685
利益剰余金	105,473	120,350
自己株式	11,938	13,787
<b>株主資本合計</b>	<b>206,213</b>	<b>219,044</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	42,925	42,648
土地再評価差額金	303	303
為替換算調整勘定	1,188	2,301
退職給付に係る調整累計額	1,808	1,610
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>42,608</b>	<b>43,642</b>
新株予約権	1,200	1,305
非支配株主持分	22,792	23,562
<b>純資産合計</b>	<b>272,814</b>	<b>287,555</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>686,423</b>	<b>719,149</b>

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
売上高	474,896	495,464
売上原価	274,704	279,627
売上総利益	200,191	215,837
販売費及び一般管理費	190,710	193,652
営業利益	9,481	22,184
営業外収益		
受取利息	414	234
受取配当金	1,114	1,049
諸債務整理益	715	680
為替差益	1,342	266
持分法による投資利益	-	469
その他	629	862
営業外収益合計	4,217	3,562
営業外費用		
支払利息	734	666
商品券等回収引当金繰入額	576	549
持分法による投資損失	300	-
その他	444	612
営業外費用合計	2,055	1,828
経常利益	11,642	23,919
特別利益		
固定資産売却益	4,974	4,421
投資有価証券売却益	3,819	-
助成金収入	63	-
特別利益合計	8,857	4,421
特別損失		
固定資産除却損	1,085	2,095
事務所移転費用	323	295
減損損失	-	166
店舗等閉鎖損失	1,405	161
新型コロナウイルス感染症による損失	405	-
投資有価証券評価損	303	-
開発中止損失	279	-
新店舗開業費用	102	-
特別損失合計	3,906	2,718
税金等調整前四半期純利益	16,594	25,621
法人税、住民税及び事業税	3,332	4,833
法人税等調整額	1,137	1,039
法人税等合計	4,469	5,872
四半期純利益	12,124	19,749
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,167	1,976
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,957	17,772

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	12,124	19,749
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,971	230
為替換算調整勘定	576	401
退職給付に係る調整額	249	195
持分法適用会社に対する持分相当額	1,166	712
その他の包括利益合計	8,964	1,078
四半期包括利益	21,089	20,827
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,926	18,807
非支配株主に係る四半期包括利益	1,163	2,020

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間において、イズミヤ株式会社は、株式会社阪急オアシスを存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

当社グループは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために実施した除染にかかる費用等405百万円を、「新型コロナウイルス感染症による損失」として特別損失に計上しております。

その主な内容は、除染費用、休業者に支払った人件費等となります。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
減価償却費	14,197百万円	14,713百万円
のれんの償却額	380百万円	380百万円

## (株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月17日 取締役会	普通株式	1,540	12.50	2022年3月31日	2022年6月1日	利益剰余金
2022年11月2日 取締役会	普通株式	1,540	12.50	2022年9月30日	2022年11月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の著しい変動

当社は、2022年11月2日開催の取締役会決議に基づき、自己株式6,868,100株の取得を行っております。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が8,806百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が11,958百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月17日 取締役会	普通株式	1,454	12.50	2023年3月31日	2023年6月7日	利益剰余金
2023年11月2日 取締役会	普通株式	1,440	12.50	2023年9月30日	2023年11月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	百貨店 事業	食品 事業	商業施設 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
外部顧客への売上高	118,082	303,547	26,085	23,420	471,135	3,760	474,896
セグメント間の内部 売上高又は振替高	428	3,366	7,998	15,059	26,853	26,853	
計	118,510	306,914	34,083	38,479	497,988	23,092	474,896
セグメント利益又は 損失( )	7,854	4,555	1,681	2,318	11,772	2,291	9,481

(注) 1. 調整額は、セグメント間の内部取引の消去額及び事業セグメントで代理人取引として純額表示した外部顧客への売上高のうち連結決算では本人取引となる取引(セグメント間での消化仕入契約に基づく取引)の外部顧客への売上高を四半期連結損益計算書で総額表示に組替えるための調整額であります。

2. セグメント売上高及び利益又は損失は、四半期連結損益計算書の売上高、営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	百貨店 事業	食品 事業	商業施設 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
外部顧客への売上高	132,770	310,967	23,088	25,632	492,458	3,006	495,464
セグメント間の内部 売上高又は振替高	472	2,174	7,747	19,863	30,258	30,258	
計	133,242	313,142	30,836	45,495	522,716	27,251	495,464
セグメント利益	16,755	7,218	2,928	1,419	28,321	6,137	22,184

(注) 1. 調整額は、セグメント間の内部取引の消去額及び事業セグメントで代理人取引として純額表示した外部顧客への売上高のうち連結決算では本人取引となる取引(セグメント間での消化仕入契約に基づく取引)の外部顧客への売上高を四半期連結損益計算書で総額表示に組替えるための調整額であります。

2. セグメント売上高及び利益は、四半期連結損益計算書の売上高、営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性に乏しいため、記載を省略しております。



## (収益認識関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

各セグメントの収益の分解情報とセグメント情報に記載した「外部顧客への売上高」との関係は以下のとおりであります。

なお、その他の収益は、リース取引に関する会計基準に基づく賃貸収入等であります。

(単位：百万円)

	百貨店 事業	食品 事業	商業施設 事業	その他 事業	調整額 (注3)	合計
顧客との契約から生じる収益	363,640	311,379	19,262	25,238		719,521
その他の収益	1,461	4,186	8,231	1,384		15,264
総額売上高(注1)	365,102	315,565	27,494	26,623		734,786
組替額(注2)	247,020	12,017	1,409	3,203	3,760	259,890
外部顧客への売上高	118,082	303,547	26,085	23,420	3,760	474,896

- (注) 1. 2022年3月期第1四半期連結会計期間の期首より適用した「収益認識に関する会計基準」等による影響を除外した従前の基準での売上高を「総額売上高」として記載しております。
2. 上記の「総額売上高」を、「収益認識に関する会計基準」等による影響を反映した「売上高」に組み替えております。
3. 事業セグメントで代理人取引として純額表示した外部顧客への売上高のうち連結決算では本人取引となる取引(セグメント間での消化仕入契約に基づく取引)の外部顧客への売上高を連結損益計算書で総額表示に組替えるための調整額であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

各セグメントの収益の分解情報とセグメント情報に記載した「外部顧客への売上高」との関係は以下のとおりであります。

なお、その他の収益は、リース取引に関する会計基準に基づく賃貸収入等であります。

(単位：百万円)

	百貨店 事業	食品 事業	商業施設 事業	その他 事業	調整額 (注3)	合計
顧客との契約から生じる収益	422,665	319,496	16,571	27,621		786,430
その他の収益	1,997	4,136	7,813	1,336		15,209
総額売上高(注1)	424,663	323,633	24,384	28,958		801,639
組替額(注2)	291,893	12,665	1,296	3,326	3,006	306,175
外部顧客への売上高	132,770	310,967	23,088	25,632	3,006	495,464

- (注) 1. 2022年3月期第1四半期連結会計期間の期首より適用した「収益認識に関する会計基準」等による影響を除外した従前の基準での売上高を「総額売上高」として記載しております。
2. 上記の「総額売上高」を、「収益認識に関する会計基準」等による影響を反映した「売上高」に組み替えております。
3. 事業セグメントで代理人取引として純額表示した外部顧客への売上高のうち連結決算では本人取引となる取引(セグメント間での消化仕入契約に基づく取引)の外部顧客への売上高を連結損益計算書で総額表示に組替えるための調整額であります。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	89円93銭	153円94銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	10,957	17,772
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	10,957	17,772
普通株式の期中平均株式数(株)	121,851,187	115,448,924
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	89円25銭	152円64銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(株)	927,865	986,143
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要		

## 2 【その他】

第105期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)中間配当については、2023年11月2日開催の取締役会において、2023年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	1,440百万円
1株当たりの金額	12円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2023年11月30日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月9日

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人  
大阪事務所指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 成 本 弘 治指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 城 戸 達 哉指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 玉 垣 奈 津 子

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエイチ・ツー・オー リテイリング株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。